

企業人として考える国際協力 -これまでの取り組みとこれから-

矢崎総業株式会社

渋谷 至



自己紹介

矢崎総業株式会社 基幹システム構築準備プロジェクト所属。

- ・2012年3月、広島大学国際協力研究科博士課程前期修了。**ザンビア特別教育プログラム修了生。**
- ・2012年4月から、矢崎総業の研修制度を利用し、シンガポールとインドに滞在。
- ・2013年4月より日本での勤務開始。調達室勤務を3年ほどした後、業務改革推進プロジェクトへ異動。
- ・2018年5月より2021年5月まで、矢崎上海有限公司に出向。中国の工場を回りながら、業務改善活動を実施。
- ・2021年6月から現職。

矢崎総業株式会社の紹介

- HPも良いのですが、CSRレポート見ていただくと、非常に分かりやすい

<https://www.yazaki-group.com/pdf/csr2021/all.pdf>

0. 目的と本日の流れ

- 注意事項

* 本日は話す内容は、あくまで私個人としての話なので、矢崎総業への問い合わせはお控えください。

* 何か追加で知りたいことがあれば、直接私にご連絡を。Facebookで探してみてください。

0. 目的と本日の流れ

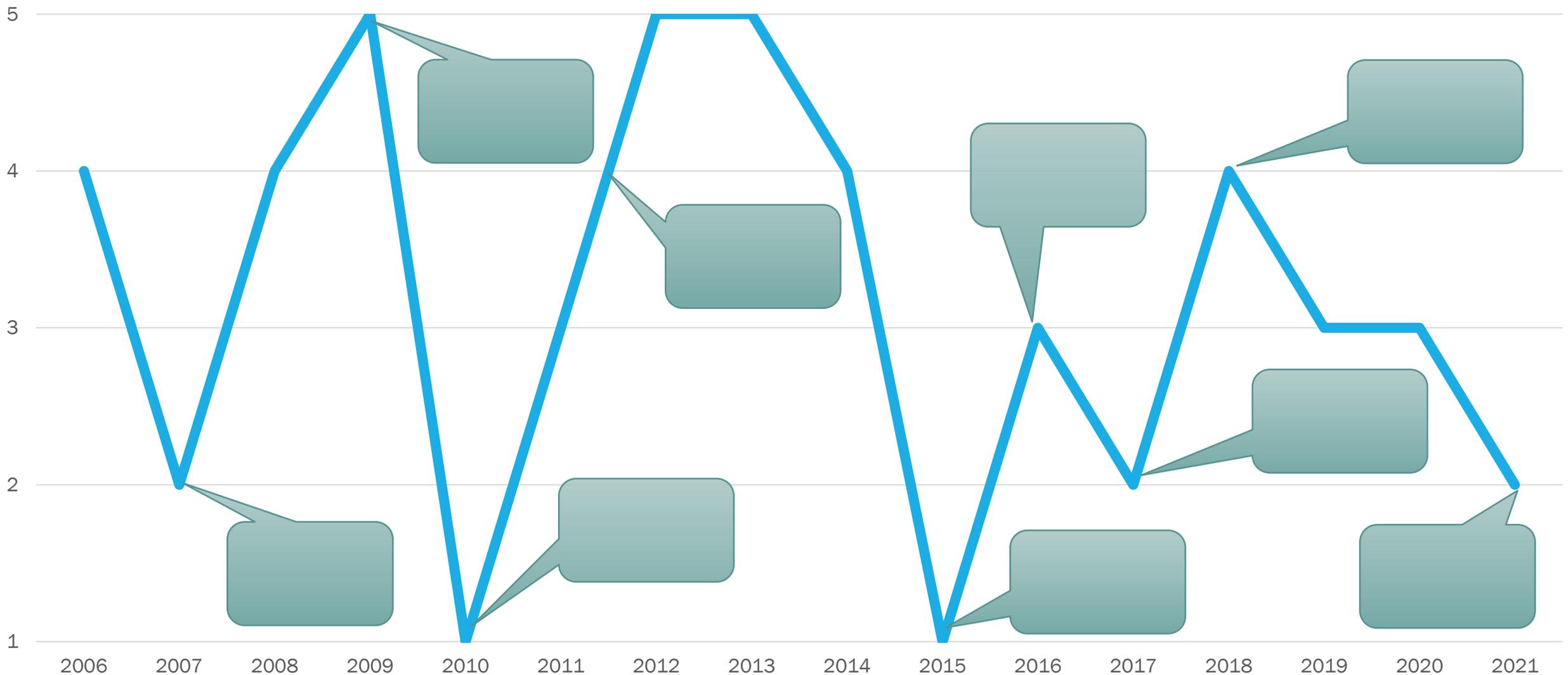
- 目的

「国際協力分野への就職がコロナ禍で非常に厳しい中、民間でどんなことが出来るかを知り、『あー、こういう進路もあるのか』という進路選択の一助にさせていただく」

- 本日の流れ

私のこれまでの経歴をなぞっていく中で、どういう考え方で今に至ったのかというところを共有する。

渋谷の人生バロメーター



第1章

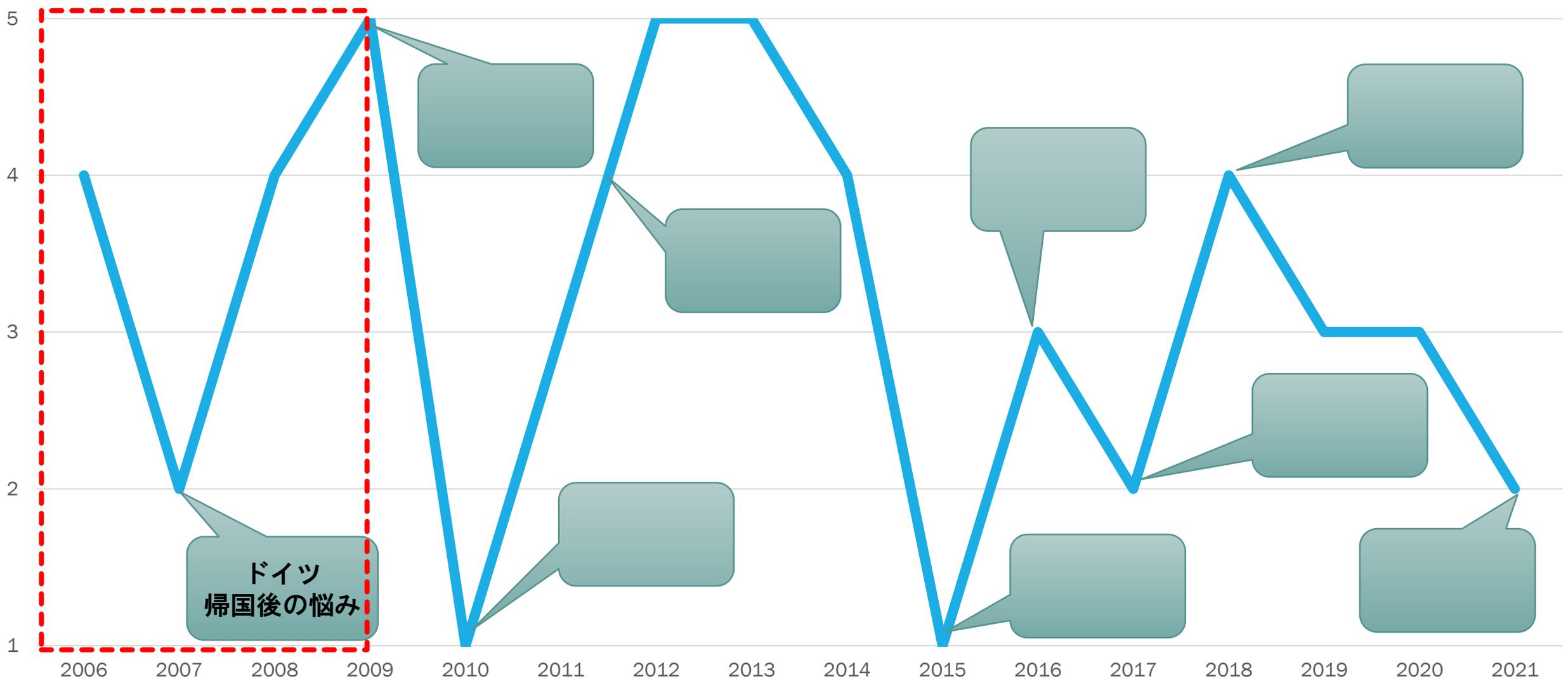
第2章

第3章

第4章

第5章

渋谷の人生バロメーター



第1章

第2章

第3章

第4章

第5章

1章 ドイツ留学後→ザンビアに行くまで

■ 2006年8月

ドイツに留学したあとに、**漠然と世界で活躍する人材になりたいと国連職員を目指す**。しかし、当時勉強していたのは歴史学だったため、教員の勉強していたことから、「教育」分野で国連職員を目指そうとしていた。

■ 2008年4月

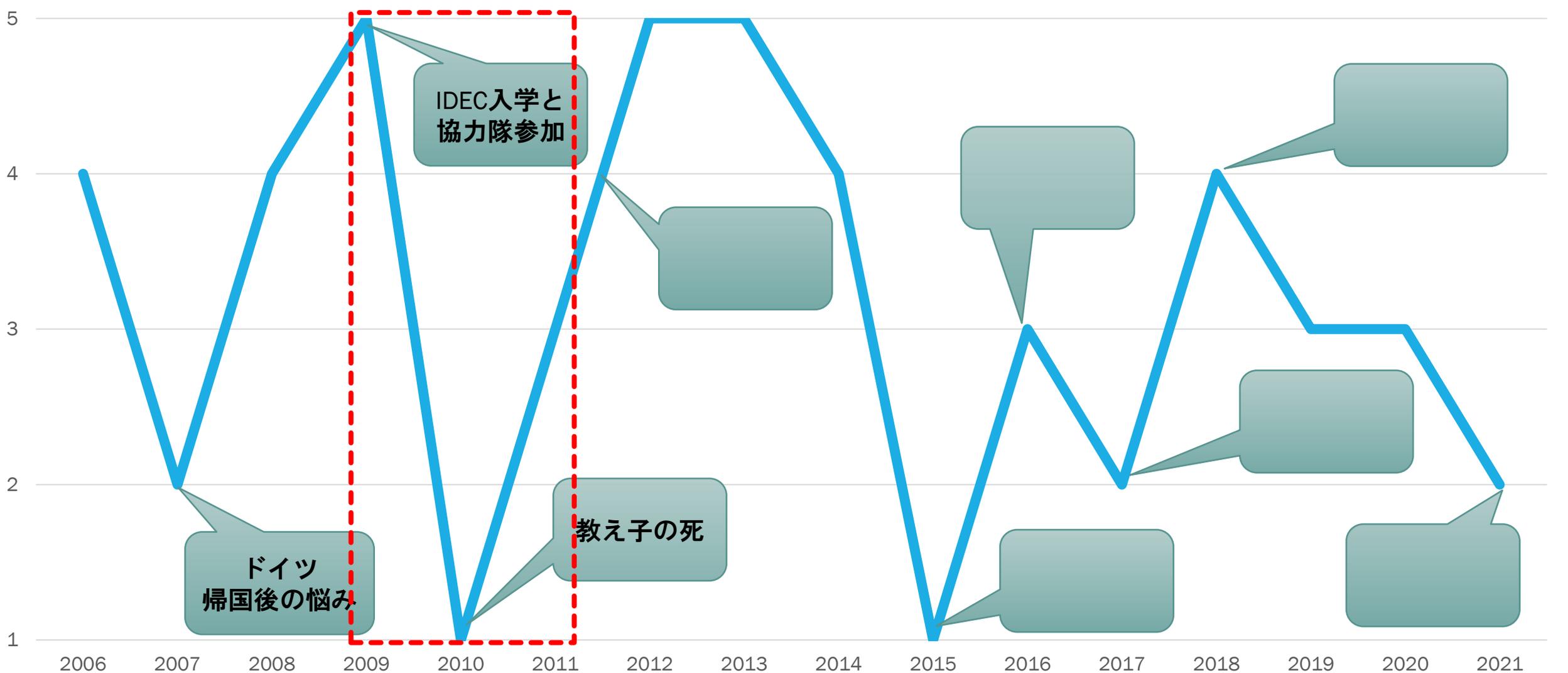
専門性を高めるために、広島大学国際協力研究科へ

- ・研究をしようにも、途上国にそもそも行ったことがなかった
- ・ちょうど、入学後ザンビアプログラムのポスターが目に入り、ザンビアプログラムで協力隊へ行くことを希望し、合格。

■ 2009年1月

- ・H20-3次隊としてザンビアに理数科教師として赴任。

渋谷の人生バロメーター



第1章

第2章

第3章

第4章

第5章

2章 ザンビア中

■ 2009年-2010年

・ザンビアでは数学の教師として2年間活動。対象は、中学校2年生と3年生。リヴィングストン市の公立中学校（当時はBasic Schoolと呼ばれる）













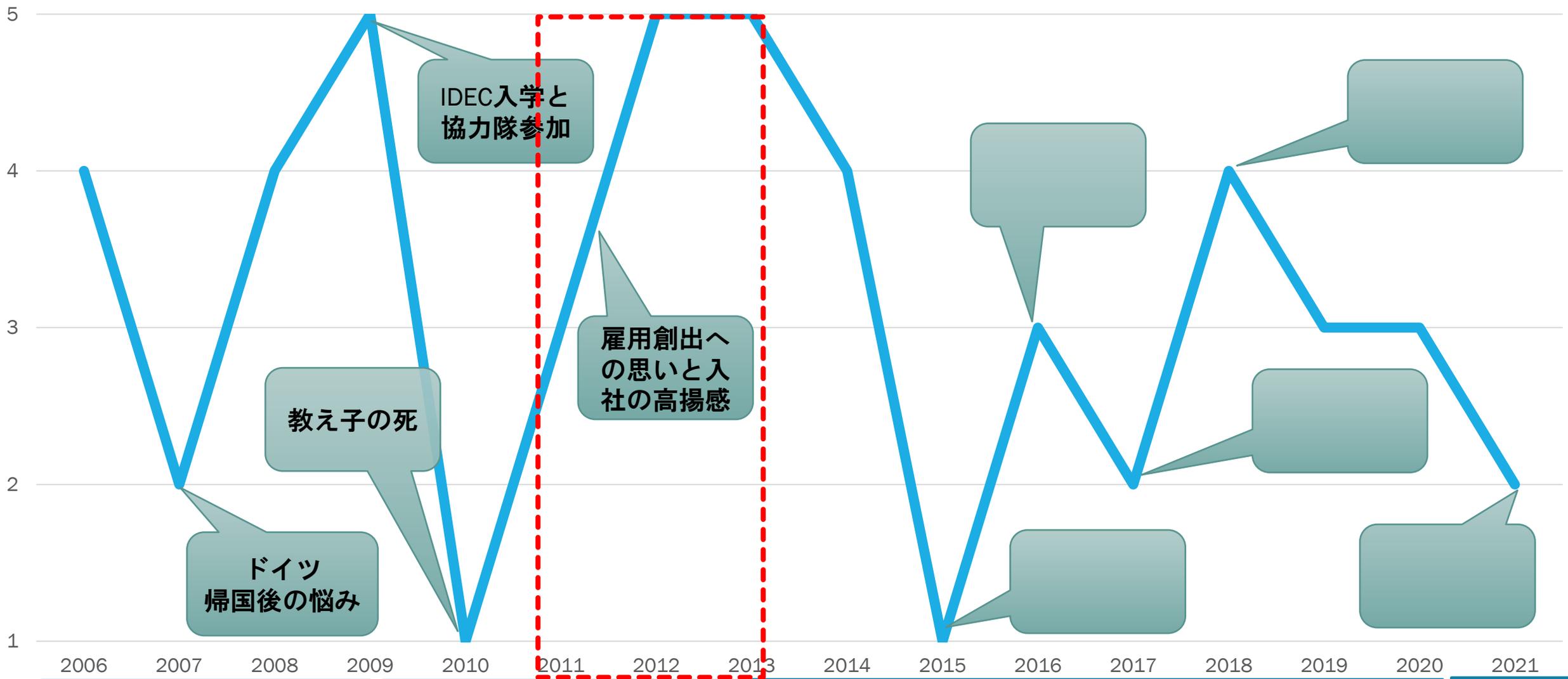
2章 ザンビア中

■ 2009年-2010年

・**教え子の死に直面する。**

・教育だけのアプローチでは、現地の根強い貧困を解決するのは厳しいと感じた。

渋谷の人生バロメーター



第1章

第2章

第3章

第4章

第5章

3章 ザンビア帰国後から就職まで

■ 2011年前半

- ・ザンビアで教員やってたし、日本で教員になろうと思ったときもあった。

■ 2011年後半

- ・でも、見てきたこと、感じたことを踏まえると、とても日本で教員をやるのがアフリカで直視した問題解決になるとは思えなかった。
- ・貧困をなくすには、雇用を生むしかない。雇用が所得向上を生み、教育や医療にも波及するはず。

では、「途上国で雇用を生む仕事」を体現している会社はどこか？

ー総合商社、繊維メーカー、食品メーカー、etc...

→最終的に、社是、会社としての考え方や途上国での工場展開などの実績から、**矢崎総業への入社を決める**。2011年8月。



矢崎総業の社是

「世界とともにある企業」

「社会から必要とされる企業」

矢崎総業の歴史からひも解くグローバル展開の考え方

■ 1. 「すべては貧困から」

→自社の利益ためだけでなく、雇用を創出し、貧困さをなくすことが必要。

(1962年タイ、1968年台湾、1972年フィリピン)

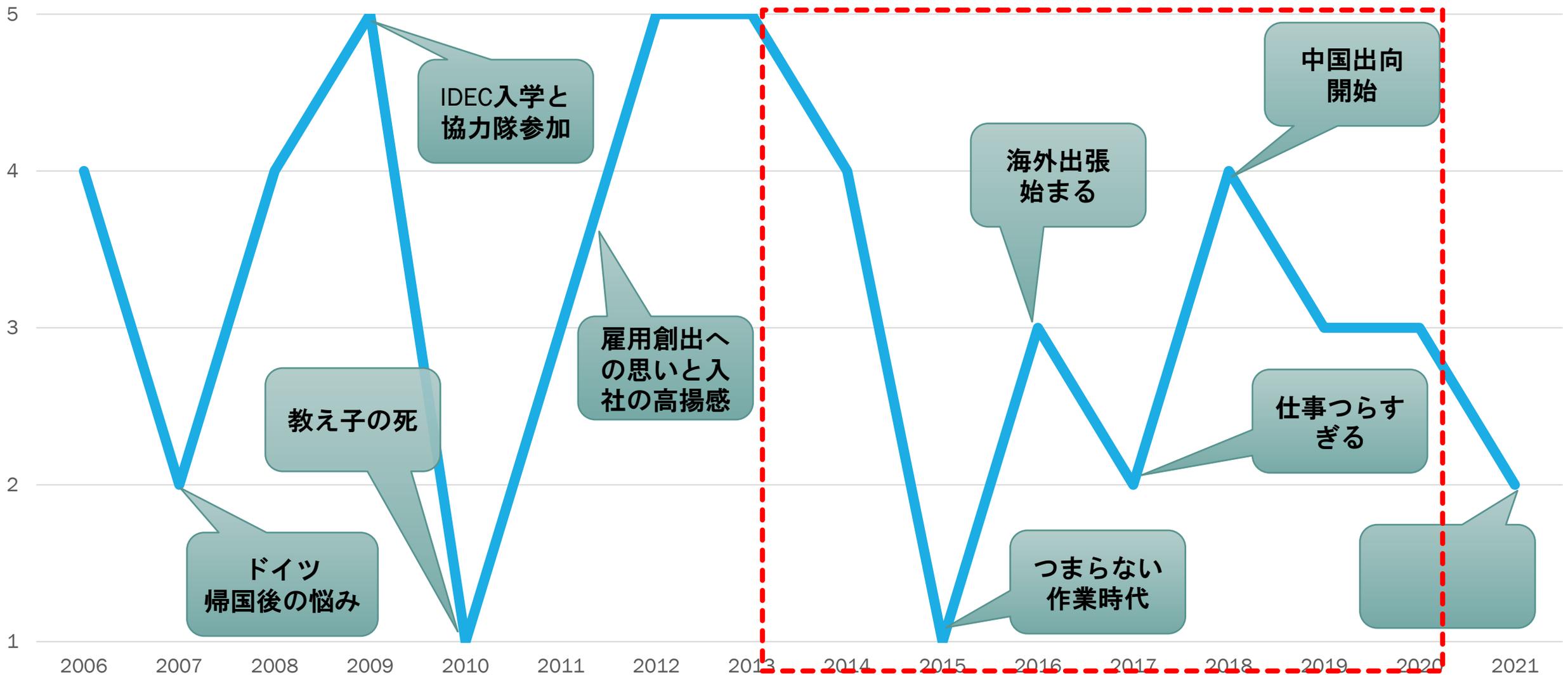
■ 2. 「言葉は喋れなくてよい」

→額に汗して、一緒になって仕事をして、現地で覚える

■ 3. 「日本の常識は成田においていけ」

→軒先を借りて、仕事をさせてもらっている

渋谷の人生バロメーター



第1章

第2章

第3章

第4章

第5章

4章 矢崎総業入社後からの動き

■ 2012年4月～2013年3月

- ・アドベンチャースクールという入社前研修制度を使い、シンガポール10か月＋インド2か月滞在。

■ 2013年4月～2017年

- ・最初3年は部品のデリバリー部隊。**正直あまりにもつまらない仕事**。ただ、上司の「腐るな」という言葉もあり、腐らず色々と頑張る。
- ・ただし、会社への新規事業提言は、役員に対してずっと続けてきた



4章 矢崎総業入社後からの動き

■ 2013年4月～2017年

- ・最初3年は部品のデリバリー部隊。**正直あまりにもつまらない仕事。**
- ・上司の「腐るな」という言葉もあり、腐らず色々と頑張る。
- ・ただし、会社への新規事業提言は、役員に対してずっと続けてきた

4章 矢崎入社後からの動き

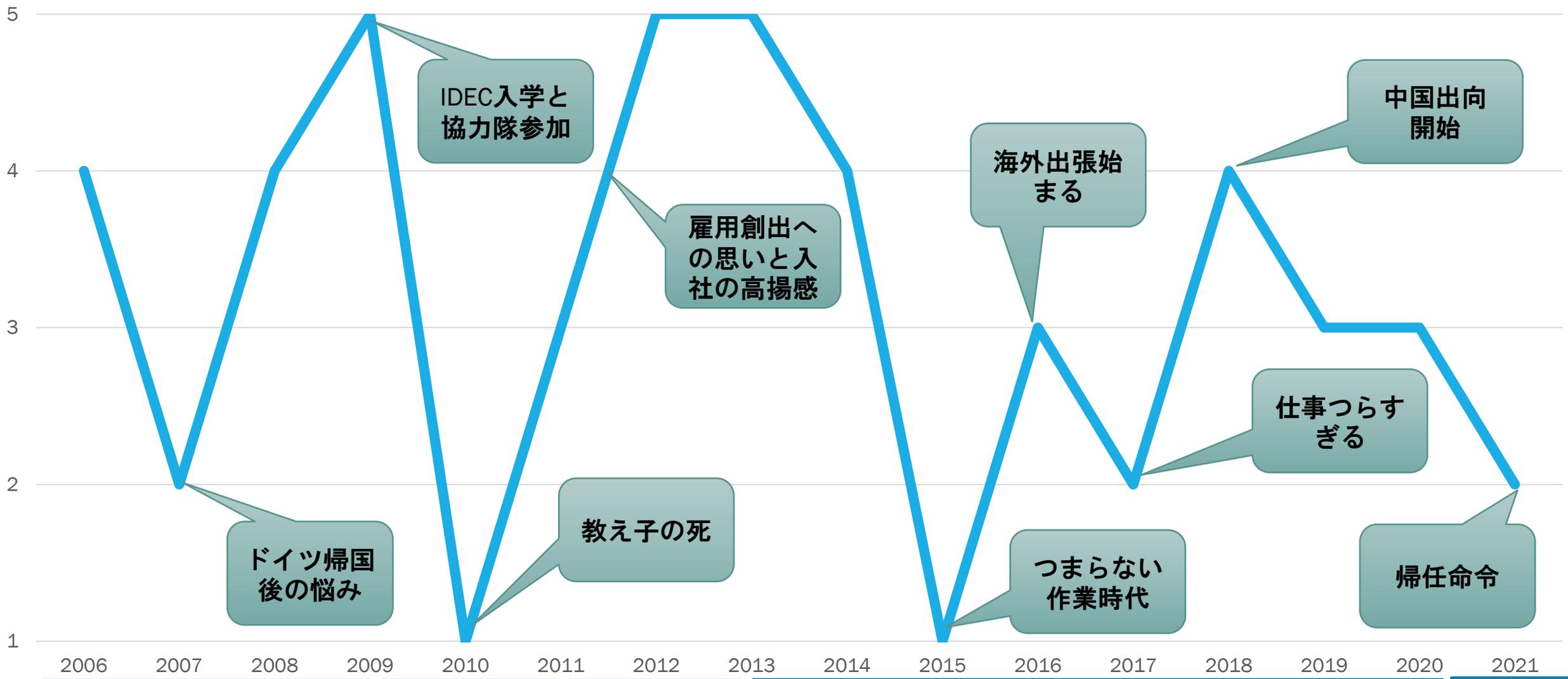
■ 2017年6月～2018年4月

- ・途中で中国上海へ出張。のべ1年ほど（業務とシステムの統一のためのプロジェクトに参加）
- ・工場の仕事をほぼ理解していない状態で臨んだため、**現地ユーザーと軋轢発生。仕事に支障を来すことも。**
- ・そこでの活躍を認められてか、プロジェクト側に異動。

■ 2018年5月～2021年5月

- ・異動後即中国に出向。2018年5月～2021年5月まで、広東省の3工場を回る。
- ・広州でアフリカ向けビジネスの実態も調査。阪大の澤村先生にも現地でお会いする。（2019年10月）

渋谷の人生バロメーター



第1章

第2章

第3章

第4章

第5章

5章 中国帰任、そして現在

■ 2021年2月

- ・コロナの影響もあり、**中国より帰任**の命令が下る。

■ 2021年5月

日本帰国

■ 2022年1月

- ・現在の仕事は、基幹システム構築準備プロジェクトに所属
- ・だが、自分の会社のリソースを考えた**新規事業案**も個人的に作成。役員のところを持っていく準備をしているところ。あまり詳しくは言えないが、もちろんアフリカを舞台にした事業。
- ・かつ、新規事業の構想部隊への異動を志願し、役員複数名と部長を説得中。
- ・同時に、個人でのアフリカ起業準備も進めている。**両輪（会社＋個人）での起業を模索。**





本日のまとめ

■ 企業人として考える国際協力

- ・あくまでも「手段」。国連職員、専門家、開発コンサルタントになる、というのは「手段」では？
- ・みなさんは、途上国のために、どうしたいのか。本来持っていた「目的」は何でしたか？

■ 渋谷の国際協力

- ・私は、「**より良いアフリカの生活に貢献する**」ことが目的なので、その手段として、「**雇用を生むことに注力することができる仕事をする**」ことを選択。

そして、あなたの国際協力は？



本日のまとめ

そして、あなたの国際協力は？



ご清聴ありがとうございました！